

地域に愛されて、50周年!



青南だより

平成30年1月号

港区立青南幼稚園
園長 新山 裕之

<気持ちのいい目覚めの習慣から>

今年度も、残すところ3か月となりました。年長組の子どもたちは、もうすぐ小学生となります。朝、家を出る時刻は今よりも3~40分は早くなります。登校する1時間前には起きて、食事と排便を済ませて家を出られるように計算して、今から少しずつ慣らしていきましょう。そのためには、夜更かしは厳禁です。「早寝早起き朝ごはん、テレビを消して外遊び!」登降園時には、一緒に歩きながら、必要なことは丁寧に教え、一人で歩く際に自分で考えて判断し行動できるようにする準備期間にしましょう。

<冬の自然と幼児の学び>

12月初旬には、鮮やかな色合いで私たちの目を楽しませてくれた楓の木。年末にはすっかり葉を落とし、今は園庭や2階のテラスには種がいっぱいです。その種は羽がついていて、くるくると回って落ちていきます。幼児教育は、遊びの中で興味や関心を追求する喜びを得られるようにすることが重要です。この種も、大人がちょっときっかけを作ることで、なぜ回るの?他の種はどうなっているの?など子どもの興味を学びの芽につなげる教材となります。身近な自然や生活の中にたくさんある、そんなきっかけを敏感にキャッチする感性を私たち自身が磨きたいものです。

<ハッピーワードを聞かせよう>

言葉について考える機会が多くあります。気持ちのいい言葉を使っている人の周りには笑顔が集まります。逆にマイナスな言葉を使っていると楽しいことが逃げてしまいがちです。口から出た言葉を最初に聞くのは自分自身です。潜在意識に負の感情を聞かせるのか、すてきな言葉で楽しいイメージを植え付けていくのか、この差は大きいものがあります。大人自身の何気ない言葉や行動を子どもたちは手本とします。親も子どもみんな元気に笑顔で、充実の3学期にしていきたいと思います。



成年をすてきな一年にしていきたいと思います



うがい、手洗い、消毒を習慣付けましょう



たくさん落ちているかえでの種。どう使いますか?



水仙は冬の間にいち早く花芽を付けます



葉が落ちた園庭の木々。でも新芽はきっと...

青南の 二十四節気

・・・睦月(むつき)・・・

小寒(5日)・・・青く澄んだ空に冷たい風が吹きます・・・

大寒(20日)・・・厳しい寒さに氷や霜柱が見られる日も・・・

12月初旬には鮮やかな彩りを見せてくれた楓の木がすっかり葉を落とし、園庭はすっかり冬の気配となりました。東京は乾いた晴天が続くことが多く、冷たい風も吹きます。それでも、都内ではなかなか氷点下になることはありません。氷や霜柱、雪などはタイミングを逃しては見ることや触れることができない自然現象です。

幼稚園でも家庭でも、冬の時期ならではの自然とのかかわりを大切に、寒さに負けず戸外遊びも進めていきたいと思えます。